

Development of the Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses in Japan

川口, 賀津子

<https://hdl.handle.net/2324/4474992>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	川口 賀津子			
論 文 名	Development of the Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses in Japan (日本における中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度の開発)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	中尾 久子
	副 査	九州大学	教授	橋口 暢子
	副 査	九州大学	教授	後藤 健一

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究の目的は、高齢化社会の中で増加が予測される中高年ジェネラリスト看護師が果たす役割を自己評価する「日本における中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度」を開発し、その信頼性と妥当性を評価することである。

研究は段階的に行われた。中堅ジェネラリスト看護師と看護師長の半構造的面接から尺度項目を抽出し、尺度全体および各項目の内容妥当性について、看護管理研究者と中高年ジェネラリスト看護師を対象に尺度原案を検討した。得られた 36 項目の尺度原案を含む質問紙調査を、日本のジェネラリスト看護師（中高年看護師 837 名、若手看護師 800 名）に実施した。探索的及び確認的因子分析を行い、尺度の内部一貫性と構成概念妥当性を分析した。

質問紙調査の結果、504 名の中高年ジェネラリスト看護師と 311 名の若年ジェネラリスト看護師から有効回答を得た。最終的な尺度は 25 項目で構成され、「看護師長のバックアップ」「若年看護師への非公式なメンターとしての実践指導」「若年看護師への精神的支援の提供」「患者・家族への共感的支援の提供」「チーム医療の調整」の 5 因子が抽出された。確認的因子分析において、これらの結果の適合度が裏付けられた。クロンバックの α 係数は、尺度全体で 0.94、5 因子は 0.72~0.91 の範囲で信頼性が高く、5 因子全体の累積寄与率は 65.4%と良好であった。

以上より、5 因子 25 項目からなる「日本におけるジェネラリスト看護師の役割遂行尺度」は、十分な信頼性と妥当性を有することが確認された。中高年ジェネラリスト看護師は、このツールを使用して看護実践を自己評価できると考えられる。さらに、看護師長は中高年ジェネラリストの役割遂行を評価し、継続的な教育を支援することが可能になると考えられ、本研究の意義は大きい。

予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。よって、本論文は予備調査委員合議の上、博士（看護学）の学位に値する論文として、価値あるものと認める。

主査 中尾 久子
副査 橋口 暢子
後藤 健一